

電力業界におけるESG情報開示及び レピュテーションと業績との関係

サステナブル・ラボ株式会社

【研究の目的】

本研究では、ESG評価のどの要素が未来の企業価値を推定するソースになり得るかを検討する。電力業界の売上高上位5社（東京電力ホールディングス、関西電力、中部電力、東北電力、九州電力）を対象に、情報開示及びレピュテーションに係る直近2年間の独自算出スコアと、経年での「株価伸率」「業績伸率」との相関関係を見る。

【解析結果】

- 「GRISコア」が高いほど「翌期の売上高の伸び率」が高い傾向にある。

SDGsに比べGRIについては準拠した記載が多く見られたため、各企業の潜在価値を表す力が高かったことが考えられる。翌期だけではなく3年後、5年後といった中期での業績/株価成長との相関についても今後研究の余地がある。また、トータルスコアだけではなく詳細な項目ごとの相関についても今後研究の余地がある。

- 「SDGsスコア」と「業績/株価」との相関は見られなかった。

SDGsに準拠した定量項目の記載がほとんど見られず、スコア化自体が困難であったことが大きな理由と考える。各企業がSDGsの記載要領を理解し、統合報告書での情報開示を洗練させていけば、各企業の潜在価値を類推する指標になり、業績/株価との相関が浮かび上がってくる可能性がある。

- 「代表取締役/社長の顔写真のポジティブ感情スコア」が高いほど「翌期のROA伸び率」が低い傾向にある。

ポジティブ感情(CALM/HAPPY)スコアの高さを、経営課題を真摯に捉えていない態度であると仮定すると、代表取締役/社長が経営課題を真摯に捉えていない企業ほど、翌期のROA伸び率が低くなるということが出来るかもしれない。但し、企業によっては期をまたいで同じ顔写真を使いまわしているケースがあり、この場合は当期時点での潜在価値を正しく表せていない可能性がある。

- 「クチコミのポジティブ感情スコア」が高いほど、「翌々期のROE伸び率/株式出来高伸び率/株価期待値がプラスになる日の割合」が低い傾向にある。
- 「クチコミのネガティブ感情スコア」が高いほど、「翌々期のROE伸び率/株式出来高伸び率/株価期待値がプラスになる日の割合」が低い傾向にある。

ポジティブ/ネガティブいずれにせよ、クチコミの感情が豊かであるほど業績/株価がマイナス成長する傾向にあった。また、翌々期の業績/株価に相関が見られることから、クチコミ発生と業績/株価の変化に1-2年程度の時間差が見て取れる。なお、今回の解析エンジンではポジティブ感情とネガティブ感情が排他関係にないため、「ポジティブかつネガティブ」という解析結果があり得る。

【総合考察】

- 3種類の分析全てにおいて、目的変数との一定の相関が見えたことから、統合報告書の記載内容やクラウドレピュテーションは、未来の企業価値を推定するソースになりえると言える。
- 一般的に顔写真よりも動画のほうがより精緻な解析が可能であり、今回の対象企業5社のうち、1社において株主総会の動画を公開していたため、動画解析エンジンを用いて心理状態を経時で解析した。結果、スピーチする議題によって心理状態が大きく変動していることが見て取れた。今後、動画を公開する企業が増えていくと想定した場合、企業の潜在価値を図るソースの1つになり得ると考える。

⇒今後、日経上場企業全社の過去5年分を同様の方法で解析していき、より深い相関関係の特定及び未来の企業価値測定を目指す。



SusLab

サステナブル・ラボ株式会社について

私たちは、企業活動が与える環境・社会への影響の「見える化」×「最適化」に取り組んでいます。

会社名	サステナブル・ラボ株式会社
所在地	〒106-0032 東京都港区浜松町2丁目5-3 リブポート浜松町703
連絡先	Tel: 03-6869-3615 Email: info@suslab.net
Web	https://suslab.net
設立年月日	2019年1月
代表者	平瀬錬司